

# 小さなエコの大きな意味と信仰

すべてのいのちを守るために

吉川 まみ  
上智大学教授

## ⑦ ゴミゼロ宣言の町に学ぶ素敵なエコ

これまで、教皇フランシスコやカトリック教会全体が関連する動向などをお伝えしながら、カトリック教会が環境保護を考えるとき基礎を置く回廊『ラウダート・シ』を参照して、環境問題の理解や小さなエコ実践の意義についてお話ししてきました。

今回からは、実際にエコ実践に取り組んでいる人々や地域の事例に学んでいきます。今回は、小さな町の大きな事例です。

### 「エコ実践の基本「資源循環」

第一回に、教皇が『ラウダート・シ』で、汚染・ゴミ問題から環境問題を語り始めたことをお話ししました。第2回には、人間が環境問題を発生させずに自然と関わっていくには、そもそも水や大気や全ての物質が循環する地球の掟を視野に入れねばならないこと、そして、日常生活の中でこの循環を壊す振る舞いをしないような配慮がエコ実践の原点であるとお伝えしました。

具体的に私たちの身近でできることは、自然界で循環できないものを廃棄しない、廃棄する量をできる限り減らすこと。つまり、汚染物質を捨てない、ごみの量を減らす、この二つが原点です。

### 3Rとその優先順位

そのため、日本の社会には循環型社会の実現に向けた法律があります。2000（平成12）年6月に公布された「循環型社会形成推進基本法」です。この法律は「3R」、すなわち「リデュース（Reduce）ごみの発生抑制」「リユース（Reuse）再利用」「リサイクル（Recycle）再資源化」に基づいています。

3Rは誰もが一度は耳にしたことがあると思います。しばしば3



徳島県上勝町の「上勝町ゼロ・ウェイストセンター」。ごみを45種類に分別回収する「ゴミステーション」など、先進的な取り組みに、国内外から取材や視察が絶えない。 ©上勝町

つた製品や部品を再利用する」、「出たごみはリサイクルする」という順番です。ごみを減らす配慮は日常生活の中で、一般の住民なら誰もがお金も時間もかけずにできそうです。

### 上勝町の

### 「ゼロ・ウェイスト宣言」

今から20年前、徳島県の上勝という町が全国に先駆けて「ゼロ・ウェイスト宣言」を行いました。ゼロ・ウェイストとは、無駄、浪費、ごみをなくすという意味です。生じた廃棄物をどう処理するかではなく、そもそも、ごみを出さない「社会を目指すものです。高齢化が進む人口1500人に満たない山間の小さな町が、日本国内はもちろん海外からも注目されるようになり、視察に訪れる人や取材は絶えることはありません。

上勝町は、宣言から17年でリサイクル率80%を達成し、2020年には「上勝町ゼロ・ウェイストセンター」というゼロ・ウェイストの取り組みを発信する複合施設を新設しました。

この施設には、町から出るごみを45種類に分別し回収する「ゴミステーション」の他、町民の方が不要になった物を持ち込み、他の人が無料で持ち帰れる「ぐるぐるショップ」や、交流ホールやゼロ・ウェイスト体験ができる宿泊施設などが併設されています。



ごみを分別する上勝町の子ども ©上勝町

### 住民の45分別による資源化

上勝町ではごみ収集を行います。消費者としての住民は、生ごみなどはコンポストを利用し各家庭で堆肥化します。瓶や缶などのさまざまな「資源」は、各自で「みステーション」に持ち込み、なんと45種類以上に分別し、それらがそれぞれ資源化されています。

これにより、住民は次第にごみにならないような商品を買うようになり、選ぶ物が変わってきたといえます。それでもどうしてもごみとして捨てるを得ない物があれば、それが生産者側にエコ化を求めるポイントです。住民や行政の努力ではどうにもならないものが事業者の課題なのです。

事業者は、再利用、リサイクルできる商品を作ったり、自然界で分解できる素材を開発したりして資源が循環するシステムをつくることに配慮します。そして、行政は、ごみを出さないための法整備をし、ごみの焼却・埋め立て処理

からの脱却を目指すなど、消費者・事業者・行政がそれぞれの立場から「ごみを出さない社会」のために、できることに取り組んでいます。

### 世界に貢献する

### 日々のゼロ・ウェイスト

このような素晴らしい事例を前に、家庭で小さなエコに取り組むよりも、行政に働きかけるべきではないかと言いたくなるかもしれません。が、この事例でぜひ注意を向けていただきたいのは、45分別とリサイクル率80%達成という圧倒的な数字以上に、一人一人の地味で地道なごみ分別があって、全体としてのゼロ・ウェイストが実現していることです。

そして、暮らしてごみのつながりの本来の姿を皆で共有し、循環型社会に向かってそれぞれの立場でできる地味なことをコツコツと10年、20年と続けていけば、必ずや目標に近づけるといえる希望です。さらに、私たちは実際に日々自分の手足を動かしていくことで、自分自身のプロセスから学び、より良く変わっていきけるという事です。

神の被造界、被造物をこの社会的な次元で具体的に大切にすることの在り方、ゼロ・ウェイストを参考に、私たちの心を映し出す、日々のごみと、新しい関わりを築きたいと思えます。